

令和5年8月10日

砺波医師会誌

杏和だより

第218号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時 評〕 ・就任挨拶	網谷 茂樹	1
〔砺波医師会役員〕		2
〔活動報告〕		4
〔散 居 村〕 ・我々はどこから来たのか我々は何者か我々はどこへ行くのか ...	大澤 謙三	7
・やるだけやってダメなら仕方ない	太田 英樹	8
・「となみ三輪病院での非常勤医師の勤務状況について」 ...	加藤 一郎	9
・朝の散歩	金井 英子	10
・無くなったものと無くなりそうなもの	金井 正信	11
・『定年、還暦を迎えて』	金木 昌弘	12
・信州上田、日帰り旅	金田 学	13
・新富山県医師会館完成	河合 晃充	14
〔新入会員紹介〕	ものがたり診療所 高瀬 義祥	15
.....	市立砺波総合病院 外科 野崎 善成	16
〔編集後記〕	津田 博	17

発行所 砺波市幸町6番4号

公益社団法人 砺波医師会

発行人 砺波医師会長 網谷 茂樹

就 任 挨 拶

砺波医師会

会長 網 谷 茂 樹



砺波医師会の会員の皆様、この度砺波医師会長を拝命しました、あみたに医院の網谷茂樹です。

今回医師会長に就任することで、砺波市の医療における責任と使命を深く感じています。微力ではありますが、会員の皆様のご協力のもと砺波地方の住民の健康増進に取り組んでいきたいと思えます。これまでも多くの先輩がたが努力されてきたように、私たちは、多くの人々の命と健康に寄り添い、社会全体の福祉に貢献する役割を果たしています。私たちの努力と貢献は、患者さんや地域社会に大きな影響を与えるものです。

現在の医療環境は、コロナ感染症を経験したことにより、オンライン診療の導入、マイナンバーカード利用促進、保険証との一体化など急速に変化しています。電子処方箋の普及、電子カルテの乗っ取りによる身代金要求などにしても医師のITリテラシーを高めることがもとめられています。加えて人口の少子高齢化により、私たちが直面する課題はますます複雑になっています。近年、開業された先生方にITリテラシーの高い方もおいでになると思いますのでご意見やご助言いただければ幸いです。

そして、私たちの砺波医師会は、一人ひとりの医師の声を代弁し、尊重する場でもあります。皆様の意見や提案を真摯に受け止め、実現可能な医師会運営を心掛けていきたいと思えます。

最後に、私は心から、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。砺波市の医療の発展と進化は、皆様の協力なしには実現できません。砺波市のコロナワクチン接種の促進や、集団接種の場面でも経験しましたが行政とも協力し、ワクチンの接種を成功させたように私たちの砺波医師会は、結束し、連携することで、より良い医療を実現することができるのではないかと思います。

5類になったとはいえ、徐々にコロナ感染症は増えつつあり、まだまだ注意が必要な状況です。会員の皆様も健康に留意されて診療にあたってください。

砺波医師会役員

網谷会長

山下副会長

① 砺波医師会担当職務
(令和7年6月まで)

② 富山県医師会担当職務
(令和7年6月まで)

		監 事		理							事		副会長		会長	
住田 亮	伏木 弘	豊田 葉子	福井 靖人	澤田 樹佳	高橋 暢人	津田 博	河合 晃充	河合 博志	佐藤 伸彦	佐藤 重彦	大澤 謙三	山下 良平	網谷 茂樹			
② 乳幼児・学校保健	② 社会保険	① 広報・ネットワーク		① 広報・ネットワーク	② 産業保健・防災 ① 特定健診・特定保健指導、地域保健 ② 産業保健・健康スポーツ 特定健診・がん検診	② 広報、男女共同参画	① 庶務・会計・記録 准看護学院	② 勤務医部会	① 病診連携、地域保健	② 在宅・福祉・介護 富山県在宅医療支援センター運営協議会	① 在宅医療、介護保険 保険診療部会	② 救急医療 ① 救急医療・急患センター	② 学術・生涯教育 ① 学術・生涯教育 病診連携、在宅医療	② 学校心臓検診	① ワクチン	

議 長	山本 郁夫	副 議 長	山下 泉
顧 問	河合 康守	仲村 洋一	
裁 定 委 員	吉田康二郎	伏木 弘	太田 英樹

役 職 名	氏 名
富山県医師会理事	河合 晃充
富山県医師会裁定委員	山本 郁夫
富山県医師会代議員	網谷 茂樹・山下 良平
富山県医師会予備代議員	大澤 謙三・高橋 暢人
富山県医師国民健康保険組合組合会議員	網谷 茂樹
富山県医師信用組合理事	網谷 茂樹
富山県医師協同組合理事	藤井 正則
富山県医師協同組合総代	伏木 弘・金井 正信
	柳下 肇・豊田 葉子
富山県医師連盟執行委員（支部長）	藤井 正則
富山県医師連盟執行委員	河合 晃充

【関係団体委員等】

【砺波市】

役 職 名	氏 名
砺波市訪問看護事業運営委員(4名)	網谷 茂樹、佐藤 伸彦
	金木 昌弘、澤田 樹佳
砺波市健康づくり推進協議会委員	高橋 暢人
砺波市障害支援区分判定等審査会委員(2名)	福井 靖人、山下 良平
砺波市歯科保健推進協議会委員	大澤 謙三
砺波市防災会議委員	網谷 茂樹
砺波市国民保護協議会委員	網谷 茂樹
砺波市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク運営委員会委員	佐藤 伸彦
砺波市国民健康保険運営協議会委員(2名)	藤井 正則、佐藤 重彦

【市立砺波総合病院】

役 職 名	氏 名
地域医療支援病院運営委員会委員	網谷 茂樹
肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会委員	稲邑 克久

【砺波広域圏関係】

役 職 名	氏 名
砺波救急医療・消防連携協議会参与	網谷 茂樹
砺波地域メディカルコントロール協議会委員	佐藤 重彦

【砺波地方介護保険組合】

役 職 名	氏 名
砺波地方介護保険推進委員会委員	山本 郁夫
地域包括支援センター運営協議会委員	山本 郁夫
介護認定審査会委員(8名)	柳澤 伸嘉、坂下 英雄
	東出 慎治、豊田 葉子
	津田 博、稲邑 克久
	小清水由紀子、柴田 祥宏

【富山県砺波厚生センター】

役 職 名	氏 名
富山県砺波厚生センター運営協議会委員	網谷 茂樹
砺波地域医療推進対策協議会委員	網谷 茂樹
地域リハビリテーション連絡協議会委員	網谷 茂樹
管内精神医療保健福祉機関長等連絡会議委員	網谷 茂樹
砺波地域医療推進対策協議会部会委員	
がん・在宅医療	山下 良平
心血管疾患(急性心筋梗塞)	網谷 茂樹
地域災害医療連携会議委員(災害医療)	佐藤 重彦
糖尿病対策推進強化事業連絡会議委員(糖尿病)	大澤 謙三
地域・職域連携推進協議会委員(地域・職域)	福井 靖人
肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会委員(肝炎)	高橋 暢人
感染症診査協議会委員	山下 良平

【富山県】

役 職 名	氏 名
富山県医療審議会委員	網谷 茂樹
富山県医療対策協議会委員	網谷 茂樹
富山県透析患者等発生予防推進事業連絡協議会委員	大澤 謙三
富山県肝炎診療協議会委員	稲邑 克久

活動報告

(令和4年12月～令和5年7月まで)

令和4年12月

- 12日 第9回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 27日 胃内視鏡読影委員会

令和5年1月

- 5日 県・郡市医師会協議会
- 16日 第10回理事会
- 19日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 21日 令和5年度砺波准看護学院一般入試
- 26日 砺波准看護学院 令和5年度一般入試合否判定会議・運営理事会
- 27日 在宅医療支援講座
胃内視鏡読影委員会
- 31日 砺波准看護学院入試合格発表

令和5年2月

- 4日 砺波医療圏 在宅医療・本人の意思決定支援講座
- 9日 砺波市在宅医療・介護連携推進研修会
- 13日 第11回理事会
- 15日 砺波市糖尿病対策地域連携連絡会
- 17日 砺波地域医療推進対策協議会 がん・在宅医療部会
- 27日 社会保険員会（県医）
- 28日 学術講演会

「パーキンソン病の治療戦略」

独立行政法人国立病院機構 宇多野病院 脳神経内科 高坂 雅之

令和5年3月

- 1 日 令和4年度砺波厚生センター地域・職域連携推進協議会
- 2 日 第57回砺波准看護学院卒業式
胃内視鏡読影委員会
富山県在宅医療支援センター運営協議会
- 3 日 胃内視鏡読影委員会
- 4 日 令和5年度砺波准看護学院一般入試(2次)
砺波准看護学院 令和5年度一般入試(2次) 合否判定会議
- 7 日 県・郡市医師会協議会
- 10 日 砺波准看護学院入試合格発表(2次)
- 13 日 第12回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
砺波地域 MC 協議会
- 14 日 第156回富山県医師国民健康保険組合通常組合会
- 16 日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 22 日 令和4年度第1回臨時社員総会
- 23 日 令和4年度「地域から医療・福祉を考える会」
第208回富山県医師会臨時代議員会
- 27 日 富山県医療審議会及び富山県医療審議会地域医療構想部会並びに
富山県医療対策協議会
- 29 日 富山県在宅医療・本人の意思決定支援事業成果報告会

令和5年4月

- 6 日 第59回砺波准看護学院入学式
- 10 日 第1回理事会
- 13 日 地域医療・保健事業懇談会
- 26 日 富山県医師会第1回選挙管理委員会

令和5年5月

- 1 日 第2回理事会
- 18 日 特定健康診査等事務説明会
- 22 日 令和5年度第1回臨時社員総会
第3回理事会
- 30 日 監事会
胃内視鏡読影委員会
- 31 日 胃内視鏡読影委員会

令和5年6月

- 5 日 令和5年度第1回広報委員会
- 6 日 県・郡市医師会協議会
- 12 日 第4回理事会
- 22 日 第209回富山県医師会定例代議員会
- 26 日 令和5年度定例社員総会
第5回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 27 日 学術講演会
「産婦人科が診る頭痛」
伏木医院 院長 伏木 弘
「地域で診る片頭痛診療」
市立砺波総合病院 脳神経外科 主任部長 増岡 徹
胃内視鏡読影委員会

令和5年7月

- 9 日 富山県医師会館竣工記念式典及び竣工祝賀会
- 10 日 第6回理事会
第157回富山県医師国民健康保険組合臨時組合会
- 20 日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 26 日 胃内視鏡読影委員会
- 27 日 砺波市健康づくり推進協議会

我々はどこから来たのか我々は何者か我々はどこへ行くのか

大沢内科クリニック

大 澤 謙 三

フランスの画家ポール・ゴーギャンの絵の題名です。50歳の時（1897年）にタヒチ島で書かれた作品。愛する娘を亡くし、借金で家も失い、健康状態も悪化して失意のどん底にあったゴーギャンは、全てから逃れるように6年前からタヒチ島に移住していました。そこでのある種の達観の境地で書かれた彼の代表作。しかし彼は本作を書き上げた後に自殺を試みています。悟りの境地には程遠い煩悩にまみれた私生活（何人もの10代の少女を妻にするとか、裁判を争うとか）を送った末に阿片中毒になり1903年5月に急死しています（54歳）。

無力感・孤独感・不安感など、実存の危機に面した時に「自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、どうなってしまうのだろう」と独りごつことは多かれ少なかれどなたにもあることかと思えます。思春期の危機、失恋、肉親との別れ、大病を患った時、初老期うつ病の危機、年老いて行くことの寂しさ・悲しみ。

立ち止まっては居られないので、ほとんどの者は娯楽の欲望に溺れ日常生活の多忙に心を失い、不安を脳の奥底に追いやり、ある人は酒や娯楽や性生活に溺れ、ある人は宗教に頼り、ある人は根拠のない民族主義に安心を求めて、いつまでも明日があるような顔をして生活しています。しかし力を失い、拠り所が失われてくると途端に老け込んで弱々しくなり、人前に現れなくなり、無為にテレビの前に座っているだけとなり、フレイル・認知症・デイサービスへのお決まりのコース。自分は気がつくといふ医師会理事会でも最高齢となり古希まであと2年。同級生や少し年上の患者さんたちの「危うさ」に敏感に気がつくようにもなりました。

この国は「生産性、お金を回すこと、景気の良さが最優先」で「用済みの人間、弱者」にはとても冷たい国、「静かにゆっくりと生きて在ることだけ」では祝福されない国のようです。マスコミも「煽る報道、宴会やお祭りのような番組」で「本当に大切なこと、いい加減にしてはいけないことを忘れさせる」のに熱心です。

みんなが哲学者や宗教家になってしまえば世の中回らなくなりますが、今の日本に必要なのは、ほんの数パーセントでいいからあちこちに「居てくれてありがとうね」と祝福する人、「何が大切なのか？どこへ行くつもり？」と静かに自問自答する人が増えることじゃないかと思えます。

やるだけやってダメなら仕方ない

おおた内科クリニック

太田英樹

昨年、父が89歳で亡くなった。定年退職するまで高校の教師をしており、新型コロナウイルス感染症の流行にもかかわらず、葬儀には多くの教え子の方がお参りに来て下さった。卒業されて何十年と経っているが、「先生にはお世話になりました。」「先生から指導者を目指せと言われて頑張りました。」などいろいろなお言葉をいただいた。毎年、同窓会に父を招いて下さった教え子の方は、「昨年の会で先生の米寿のお祝いをした時は元気だったのに。いったい、どうしたんや。」と言って、寂しそうだった。教師と教え子との絆を感じた。後で知ったが、お経をあげていただいた僧侶の方も父の教え子であった。父からは仕事の話を殆ど聞いたことがなかったが、葬儀では父の教育者としての一面を垣間見た思いがした。

父は先天性股関節脱臼のため、足が不自由だった。早朝にベッド横で転倒して頭部挫傷し、救急搬送された。外傷性クモ膜下出血であった。入院後、順調に回復していたが、突然、十二指腸潰瘍穿孔による腹膜炎を発症し、緊急手術となった。術後に肺炎で危ないことが何度かあったが、なんとか乗り切って退院の話が出ていた矢先、急変したとの連絡があり、その日に亡くなった。父の顔はどこか微笑んでいるようにみえた。

父は生前、「やるだけやってダメなら仕方ないじゃないか。」と言っていたが、2ヶ月にわたる入院生活を本当によく頑張ったと思った。今頃はあの世で好きな温泉に入って、「今回はダメだったな。」と笑って酒を飲んでいるような気がした。



「となみ三輪病院での非常勤医師の勤務状況について」

となみ三輪病院

加 藤 一 郎

私が本院（となみ三輪病院）に入職して、今年度で10年目となりました。このあいだ、常勤医師は院長の酒井伸也先生と私の2名だけで勤務してきました。病棟は医療療養病床50床、介護医療院50床の合計100床ありますので、医師の24時間常駐体制が必須です。そのため、平日の当直は週の内3日間（月、火、金）、土日の日当直は約8割を外部の先生方に勤務していただいております。現在は、富山大学第一外科（心臓外科、呼吸器外科）、金沢医科大学の高齢医学講座・皮膚科の若い先生方を中心にアルバイトの日直、当直、皮膚科は木曜日午後に来院いただいております。

初期研修2年間を終了して4月に入局したばかりの新人の先生も良く来られます。私より30歳以上若い先生も多く、医師になってすぐの初々しさを感じます。そのような先生がたとお話しすると、思わず応援したい気持ちになります。心臓外科、呼吸器外科の先生方は日頃より手術や術後管理で忙しく、本院に来られた際には、患者様の急変時以外にはゆっくり休んでいただいています。基本的には寝当直になるよう、我々常勤医としても日頃から病棟の入院患者様の健康管理には気を配っているつもりです。

若い先生方は大学院生の先生、学位取得前の先生、専門医取得前の先生が多く、大学からの報酬だけでは足りないため、本院にアルバイトに来られているようです。私も若い時は外部病院の当直のアルバイトをして家計が大変助かったのを記憶しております。今は当時とは逆の立場となりました。若い先生方には当院でアルバイトしながら、学位、専門医資格等を取得して立派な医師に成長されますことを祈念しております次第です。最後にこの場をお借りして、砺波医師会の先生方、ならびに富山大学第一外科、金沢医科大学の非常勤勤務の先生方には日頃よりの御協力を、心から感謝申し上げます。



朝の散歩

力耕会 金井医院

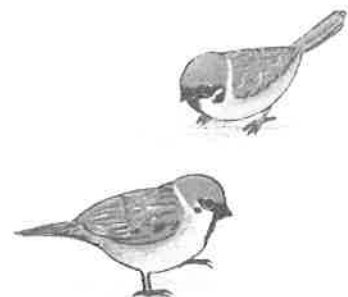
金 井 英 子

毎年5月中旬から8月初めまで朝に散歩します。暑くなる前、朝起きてすぐに家を出ます。犬を連れた近所の人、単身赴任サラリーマン風の人、ランニングする人などに会います。また、牛岳や医王山を背景にした麦畑、田んぼ、大豆畑がだんだん変わっていく様子が面白いです。そして必ず鳥がいます。特に刈り入れの終わった麦畑ではカラスや鳩、スズメなどが楽しそうに朝ごはんを食べています。発芽したばかりの大切な豆苗の双葉をせっせと小鳥たちが食べています。シロサギやカルガモも田んぼで何かを食べています。

子育てと仕事が忙しいころは家の周りを散歩したことはなく、常に車で移動していました。孫が出来て初めてベビーカーを押して散歩する楽しみを知りました。でも里帰り出産した娘が自分の家に帰っていくと、また静かになります。

孫のいなくなった家で鳥や自然と生活していると、自分も自然の中の一員になった感じがします。朝ごはんを食べるとき縁側の軒下に小鳥のエサと、キジバトのエサを撒きます。キジバトは賢くて私がエサを撒く時間を知っています。大雪の日には雉も来ました。招かれざる客も来ます。カラスです。私が朝ごはんを食べる時間に餌を撒くのは、カラスが来たら追い払うためです。というか、ガラス越しに私が立ち上がる姿が見えると飛び上がります。でも私はカラスに、「ここは私の縄張りだよ」と伝えたくてサッシ戸を開けて、カラスより大きい声で「カアカア」と叫びます。ストレス発散にもなります。

鳥は自然界の動植物を食べ排泄物は肥料になり、環境に全く負荷を与えません。毎日服を着替え、贅沢に冷暖房し、車をかつ飛ばしている自分が申し訳ないと感じます。鳥たちの棲み処を汚さないために、生ごみは肥料にし、除草剤など播かず刈った草は土に返し、真面目にゴミの分別回収に協力する事で少しでも環境負荷を減らしたいと思っています。車に乗る時間を減らして自転車で移動すれば体力作りにも貢献できますが、自転車には事故や転倒などのリスクがあるので私には無理です。でもこれからも環境負荷を減らす方法を考え続けたいと思います。「散歩」は、ヒトは自然と共に在るという事を教えてくれました。



無くなったものと無くなりそうなもの

力耕会 金井医院

金 井 正 信

今年（6月）で私は70歳になりました。視力も落ちてきて、指先の感覚が今一つなのか採血や静脈注射を失敗することも増えました。少なくともこれから先、今までどおりのことはできないだろう、少しずつ仕事の内容を減らしていくことになると感じています。

何をどう減らすかは自分がこれから何を続けたいのかを決めることと同じです。残り僅かな自分の生活を設計することになります。何をするのか、何をやめるのか一回やめるとまた始めるのは大変だろうなとかそんなことばかりぐずぐず考えています。

ところで、日本の社会では最近いくつかの止める動きがあります。保険証もその一つで、様々な個人情報の入ったマイナンバーカードが代わりになる予定です。様々なトラブルが報じられていますが、本人確認ができるため、推理小説の「死にそうな人を見つけて保険証を貸しその人が死んだときは保険証の持ち主が死んだとされるため本来の持ち主は生きていながら戸籍から消える」というトリックもなくなることになると思います。また、すでにやめたこともあります。

砺波市では、中学校の休日の部活動も教師は携わらないことになりました。これまでの教員の苦労は知りませんが休日の部活動にたくさんの思い出がある者としてはとても残念なことです。メーカーさんの販促品もなくなりました。郵便物も土曜日には集配されなくなりました。

いろいろの不便があることはわかっているけど決めたらやらなければいけないのかもしれないかもしれません。割り切って後のことは考えずに便利な方へ、楽な方へそして安くなるようにスパッとやめる。これが今どきの考え方ようです。今はなじまないのですが慣れていくことになるのでしょうか？慣らされていくのでしょうか？

自分もまた、そう遠くない時期に何かを決める時が来るのでしょうか。できるだけ静かに後に問題を残さず決められないものかなと思う今日この頃です。



『定年、還暦を迎えて』

かねきホームクリニック

金 木 昌 弘

2018年10月にクリニックを開院、院長となって今度（2023年）の10月で早5年が経とうとしています。開業したのが遅かったためか、その間に60歳を迎えることとなり、世間一般で言うところの定年、還暦を迎えました。

60歳を定年とする企業は72%、65歳を定年とする企業は21%とのデータがあり、定年延長する人も多いなか、人によっては『停年』という文字を使用するようですが、定年の意味するところは、皆さんが思われる様に、法規・法律によって退官・退職する決まりになっている年齢ということです。日本語的には「終わり」を連想させるマイナ斯的ニュアンスを漂わせているように思います。

一方、還暦とは、『60歳を迎える長寿のお祝い』とあり、干支は60年で一巡して「元の暦に還る＝還暦」と呼ばれるようになったそうです。

定年がマイナ斯的な一方、還暦はお祝いするといったプラス面があるようですが、自分が長生きをしてお祝いされるような立場になったとは到底思えません。

「さて、これから何をする？」と問いかけると答えは見つからず（永遠に見つからないと思います）、模索を続けていますが、今の自分のマイブーム（←もはや死語でしょうか）は、走ること（歩くこと）です。前の医局では40歳過ぎたら走るという伝説がありましたが、自分でも少しずつ始めました。当初はアップルウォッチをつけて、イヤホンで何かしら聴きながら颯爽と走る姿を思い浮かべていましたが、まだ散歩の域を出ていません。ただいつか息子と皇居を走って、ハーフマラソンに出たいと思っています。

当初は、夕方診療を終えてから走る（歩く）ことから始めましたが、そのうち残業が長くなってしまい、ゆっくり走って（歩いて）いる時に電話呼び出しもあつたりして、苦痛になりしまいには飽きて断念しました。そこで早朝の朝、（走らないで）歩くことにしました。早朝散歩は意外と快適ということがわかり今も続いています。

歩くうちに、いろんな人と顔見知りになり、散歩コースは多くの人で賑わっています。しみじみと我々の職業には本当の意味での定年がないということを様々な意味で感じます。

お恥かしいことに自宅周辺の地理に疎かったのですが、最近はかなり詳しくなってきました。車で一瞬に通り過ぎる場所の詳細は覚えることはできませんが、自分の足で歩いた場所の地理は不思議と忘れないものです。ここにこんな店ができたとか、視線を空に向けて歩くと（電柱に頭部打撲しましたが）色んな家を見つけたり、結構新しい発見があるものです。

そして最後に必ず続けていることは、休日の朝散歩の後に家に帰ってのむ1杯のビール、これだけはやめられません。

編者からのご依頼でこれを書き出しましたが、多分に冗長な話になってしまいました。お許しください。

信州上田、日帰り旅

となみの心療クリニック

金 田 学

コロナ禍になってからは、どこかに気軽に出かけることもできなくなり、すっかり出不精になってしまいました。自宅と職場の往復の日々で、判で押したような毎日を送っていました。それでも人間は慣れる生き物で、振り返ると、それはそれで悪いことばかりでもなかったな、と個人的には感じています。

そんな中、昨年秋に長野県上田市にある「無言館」にふと思い立って出かけてみました。「無言館」とは、第二次世界大戦で亡くなった若き画学生の生前の作品、遺作を展示した美術館で、以前に何かの本で読んで、いつか訪れてみたいと思っていました。休日に早起きして北陸新幹線に乗り、上田駅で下車。地元のローカル線である上田電鉄別所線に乗り換え、下之郷駅に向かい、そこで別所温泉行のシャトルバスに乗れば、目的地の無言館に到着します。塩田平を見渡せる小高い丘の森の中にひっそりとその美術館はありました。コンクリート打ちっぱなしの余計な装飾を施さない小さな建物でした。中に入ると意外にも結構な人が来訪していましたが、皆一様に静か（無言で）で静寂な空気に包まれていました。これが最後になるかもしれないと覚悟して描かれたであろう画の横には、画学生の出身地、出身学校、戦死した場所、享年などが付記されており、それを一つ一つ見ていくと、いろんな感慨や思いにとらわれます。戦争が奪っていくものの大きさや非情さ、当時の画学生達の無念の思い、今自分が生きていることの有難さ、などなど。

画の鑑賞で若干疲れを感じながら無言館を後にして、再びバスに乗って次に向かったのは別所温泉。信州最古の温泉地と言われており、歴史は古く、寺院や観音様などの名所や共同風呂が点在しています。ほうぼう歩き回り、最後に総湯に浸かって、汗と疲労を流しました。風呂上がりに飲んだ地元産の牛乳が最高でした。温泉地は、コロナ禍の影響もあってか、閑散として全体的には古びた感じが漂っていましたが、それがかえって信州の田舎に来たという旅情を感じさせてくれるものでした。

あまり計画も考えず、ふらりと出かけた日帰り旅でしたが、快晴の天気にも恵まれ、久しぶりに旅を満喫できた一日でした。



新富山県医師会館完成

河合医院

河 合 晃 充

令和5年6月18日、新富山県医師会館の竣工式と内覧会が行われた。今後50年ほど富山の医療、介護、福祉の中心拠点として活用されるように建設されたこの建物は、東方の雄大な立山連峰への眺望を最大限生かした南北に長い平面形で、各事務局やラウンジから立山連峰を一望でき、富山らしさを享受できる、くつろぎと安らぎのある空間を提供しています。

1階の大ホールは今までの階段式ではなく、収容人数も少なめですが、感染対策を考慮した床吹き出し式空調方式となっており、新型コロナにより一般的となったハイブリッド形式の講演会・講習会に対応できる音響システムになっているとのことです。駐車場は今までの会館より広いのですが、富山まで移動せずに講演会・講習会に参加できることは医師会員ばかりでなく、医療従事者すべてにメリットがあることです。しっかりとした音響システムであることに期待したいと思います。また、昨今全国各地で100年に一度レベルの自然災害が起こっていますが、本会館は非常用発電機や太陽光発電システムや基幹設備の屋上配置等浸水対策により、災害時においても業務持続可能な会館となっています。

コロナのパンデミックやウクライナ危機などによる機材の高騰など予定通りに建設が進むのか心配されましたが、馬瀬前県医師会長の熱い思いが届いたのか当初の予定通りに完成いたしました。

今後長きにわたり、医師会活動の中心拠点として多くの皆様に活用していただける事に期待し、新会館の完成を祝いたいと思います。



新入会員紹介



ものがたり診療所

たか せ よし あき
高 瀬 義 祥

この度砺波医師会に入会しました、高瀬義祥と申します。

2015年に富山大学を卒業し、南砺市民病院での初期研修を修了しました。その後富山大学総合診療科に入局し家庭医療（現在の総合診療）を学び、家庭医療専門医を取得しました。また昨年富山市まちなか診療所で在宅医療専門研修を修め、今年は同専門医試験に臨みながら、活動の場をものがたり診療所、南砺市利賀診療所（週1回）に移して診療を行っています。病院／診療所／地域全体のプライマリ・ケアの質向上、在宅医療の立ち上げ、山間部の医療のあり方などに興味があります。

ちなみに妻も同じ医局の同期の医師で、現在は南砺市平診療所に勤務しています。

2021年に砺波市広上町に家を建てました。今後は砺波医療圏等の医療に貢献していければと考えています。

ここまでは真面目な自己紹介でしたが、より皆さんに覚えていただくために、一つ症例を提示します。

【患者】33才男性【主訴】右足骨折疑い【現病歴】生来健康な男性。2023年6月10日のとなみ夜高まつりの突き合わせの際、大行燈の木の柱が膝の上に乗り、長軸方向にそのまま潰されるような形で受傷した。明らかに骨折しており足袋の上から出血も見られていた。関係者によって救出され台車に乗せられて病院救急外来を受診した。

はい。私です。診断は右踵骨開放骨折でした。実はこの原稿も市立砺波総合病院の病棟で書いています。無事手術も終わり、現在はリハビリに励んでいます。職場の皆さんには入職早々迷惑をかけてしまい大変申し訳なく思います。しかしこんなに長期入院はしたことがなかったので、これはこれで新鮮な体験でした。これからの患者さんを見る目が変わりそうです。痛い目には遭いましたが、各町が一生懸命制作した行燈が整列する姿はとても美しく、今後も町の一員として文化を守っていきたいと思います。

こんなお祭り大好き男ではありますが、今後ともどうぞ、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



市立砺波総合病院 外科

の ざき ぜん せい
野 崎 善 成

みなさま初めまして。このたび砺波医師会に入会させていただきました野崎善成（のざきぜんせい）と申します。

市立砺波総合病院に2018年4月より勤務させていただいております。以前にも2003年から6年間、同院に勤務させていただいたこともあり、ご存知の先生方もおられるのではないのでしょうか。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

この場を借りて自己紹介をさせていただきたいと思います。

昭和45年6月28日、愛媛県今治市に生まれました。家族は転勤族で広島、大阪、名古屋などを転々としましたが、私は中学より松山市の愛光学園に進み、6年間の寮生活を送りました。同校は医学部進学者が多く、なかでも岡山大、広島大、愛媛大へ進むものが多い中、変わり者の私は皆の行かない大学に、ということで当時「城の中の大学」であった金沢大学に平成元年に入学しました。

大学での6年間は勉強した記憶があまりなく、ラグビーが生活の中心でした。当初は北陸の気候と、人の気質の違いに驚きましたが、雄大な自然、おいしい食べ物とお酒、きれいな女性が多いことに惹かれ、北陸に残ることを決めました。

卒後は金沢大学旧第一外科に入局し、石川県立中央病院、富山赤十字病院、金沢大学（学位取得）、済生会金沢病院、済生会高岡病院、公立学校共済組合北陸中央病院、市立砺波総合病院、富山赤十字病院（二度目）と勤務し、2018年に砺波に戻って参りました。長らく外科一般何でも屋でやってきましたが、2014年ごろから乳腺外科を専門に診療しております。

2019年に父が脳卒中で倒れたことを契機に両親を砺波に呼び寄せました。これからは私にわたり先生方のお世話になることが多くなると存じますが、どうぞよろしくお願い致します。

砺波医師会誌 第218号

編集後記

藤井先生が砺波医師会長を御勇退されました。

長い間砺波医師会の仕事に携わり、6年間会長として皆をまとめてこられました。まだまだ現役で働かれると思いますが、くれぐれもご自愛ください。長い間ご苦勞様でした。

新医師会会長が網谷先生となり新体制がスタートしています。会員の皆様、砺波地域のために頑張りましょう。

X B B株が急増し気になるところですが、様子を見て杏和会も開催されると思いますので皆様の御出席お待ちしております。

また、散居村の原稿をお願いすると思いますのでよろしくお願いします。

津 田 博 記

〔広報委員〕 豊田 葉子、津田 博、山田 泰士

